



日本SPF豚協会

だより | 2018. 4
No.71

SPFという用語は、学生時代に実験動物学で教わったと記憶しています。当時の認識はSPF動物とはマウス、ラット、ネコなどでした。SPF豚協会は来年で設立50周年を迎えますので、筆者がSPFを知る前からすでにSPF豚が作出されていたこととなります。作出に尽力された諸先輩方の業績に改めて敬意を表します。

SPFは Specific Pathogen Free の略語で、指定された病原体（細菌、ウイルス、寄生虫等）を持っていないという意味です。SPF豚で指定されているのは主に養豚の生産性を阻害する病原体ですので、健康に育てられた豚です。SPF豚でも「指定された病原菌」以外の一般的な細菌は保持していることとなりますから、**SPF豚は決して無菌ではありません**。病原体を含む検出可能なあらゆる微生物をまったく持っていない状態は Germ-Free と呼ばれ、理論的には帝王切開や子宮切断で作出できます。しかし、Germ-Free 豚が無菌であり続けるためには微生物がいない飼育環境と飼料が必要です。「指定された病原体を持っていない」という概念が、「人に有害な病原体を持っていない豚」⇒「あらゆる菌を持っていない」⇒「無菌豚」へと誤って拡大解釈されてしまったのかもしれません。

日本SPF豚協会では、高い衛生レベルが求められるGGP・GP農場に対し、監視しつつ常に排除すべき疾病9つ、また、監視しつつ、排除に努めなければならない疾病3つを指定しています。CM農場、実験用家畜ブタ生産農場も同様の高い衛生レベルが求められています。

SPFを厳密に解釈すれば、指定疾病の病原体はすべて農場にない、つまり農場から排除されていることとなります。疾病によっては排除ではなく高度にコントロールされている状態のものはSPC (Specific Pathogen Controlled (注：筆者の造語)) という表現が適当かもしれません。排除すべき疾病には効果的なワクチンや抗菌剤がなく、一旦

提言

SPF豚の これから

日本SPF豚協会SPF豚農場認定委員会委員
日本農産工業(株)畜産技術センター

櫻井 忠



侵入を許すと簡単には排除できず、大きな経済被害をもたらすものもあります。このような疾病は真にフリーであるべきでしょう。

SPF豚農場にはSPFのF(フリー)にこだわってほしい、と考えています。清浄化が可能な疾病や有効な防疫対策、飼育管理法が確立されている疾病もあるからです。SPF豚農場の認定では、生産成績、ヘルスチェック成績、薬品費(抗菌剤の使用状況)に加えて、高い衛生レベルを維持するための防疫設備、防疫管理について基準を設け、その遵守を農場側に求めています。それらの基準は、疾病の清浄化や清浄維持の大きな武器のひとつになるはずで、SPF豚農場において、ひとつでも多くの疾病がフリーであれば、日本SPF豚協会が掲げる認定基準の考え方がさらに広まっていくと思います。

近年、農場HACCPやJGAPの認証を取得する養豚場が増えています。HACCPは衛生管理を向上させて健康な家畜を生産することであり、JGAPは食の安全や環境保全を目的とした制度です。また、AW(アニマルウェルフェア、動物福祉)やAMR(薬剤耐性制御のための抗菌剤の適正使用)が畜産農家に求められています。これらの社会ニーズや環境の変化にSPF豚農場が先駆けて応えていくことが、今後の課題になると思います。